

令和 6 年度事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 晃宝会

目 次

1 はじめに	1
2 特別養護老人ホーム あじさい園	2
3 ショートステイ あじさい園	5
4 医 務 室	6
5 栄養士・調理師	7
6 歯 科 衛 生 士	10
7 特別養護老人ホーム あじさい園宝	11
8 ショートステイ あじさい園宝	16
9 グループホーム あじさい園宝	18
10 グループホーム あじさい園	19
11 デイサービスセンター あじさい園	19
12 ケアハウス あじさい園	21
13 居宅支援事業所 あじさい園	23
15 オレンジカフェ すいもん	24
16 ニコニコタクシー（介護輸送サービス）	24
17 ハーネ中御門	25
別 紙	29～55

事業報告書

社会福祉法人晃宝会
理事長 松村圭祐

ご利用者、ご家族、地域住民の方々、行政及び社協等関係者の皆様の深いご理解と多大なご協力なくしては、コロナ禍・コロナ禍以降の厳しい現状を平常心を持って明るく乗り越えることはできませんでした。まずもって皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2040 年に向け地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現が急務となり、令和 6 年度には介護保険制度改正も行われました。改正では、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、すべての介護サービス事業者を対象に業務継続計画の策定が義務付けられました。

高齢者のみならず障がい・児童分野についても学ぶべき時が来ており、社会福祉法人の深化と推進に向け多種多様な関係機関との連携や協働が求められています。特に、地域包括支援センター(晃宝会では奈良市東部地域包括支援センター運営)では、住民とともに地域課題を解決するさらなる中心的な役割を担い、在宅・施設サービスを行う複合型施設としては当然のこと、役職員の一層の資質向上や事業展開が求められていることを実感しました。

これらは私達一人ひとりの、また、組織としての「心身の健康」を最優先してこそ成し遂げられる大きな課題です。ご利用者の心身の安定を支援するためには、知識、技術に加えてコミュニケーション力、豊かな人間性も必要です。

私達の日常は、人々の笑顔と心身の健康を守る崇高な営みであり、誠実に努力を重ね、研鑽をつみ、自己成長を追求してきました。困難事例や課題に直面したり、目標達成に及ばないことがあったとしても、そこから得たことは何事にも変えがたい未来への夢の一步となったり、大地に種をまくことに繋がったと思います。高い壁にあたっても、誇りと責任を忘れず前向きに行動しチーム力を培ってきました。

お互いの心身の健康を大切に思い合い、目の前の人といい人生をご一緒したい、と思い続けて運営を行ってまいりましたことを令和 6 年度の報告とします。

※別紙 1 参照（令和 6 年度 主な環境改善内容）……………P.29

2 特別養護老人ホーム あじさい園

法人目標 『心身の健康』について

ご利用者が、心穏やかに過ごして頂ける様に訴えに耳を傾け援助させて頂きました。体調面に関しても、些細な変化にも気を配り看護師と連携し、医療に繋げることで適切な治療や処置を受けてもらうことが出来ました。職員についても、ご利用者の多様化するニーズに対応する中で、ストレスを1人で溜め込まない様に声を掛け合いながら援助することが出来たと思います。

パーソンセンタードケアのために

- 職員一人ひとりがご利用者に丁寧に笑顔で接するように気をつけていました。
- 毎日の生活を送る中でご利用者のサインに気が付き出来ることはしてもらい、出来ない部分でお手伝いさせて頂くようにしました。
- 看取りケアについて今年度は、5名のご利用者のお旅立ちに寄り添い、介護をいたしました。医師の指示に従って苦痛を和らげながら、ご家族、各専門職種で連携し、これまでの生活を慣れ親しんだ環境の下、自分らしく穏やかにお過ごしいただける様にお手伝いさせて頂きました。
- 行事担当の職員が四季折々の行事計画を作成しご利用者を笑顔にしてくれました。実習生が食堂の柱に四季を感じる貼り絵を作成してくれご利用者を喜ばせてくれています。
- 業務を行う中での気づきを会議の議題として話し合い、必要に応じマニュアル等の改善を行い、コロナ禍以前の様に過ごして頂ける様に少しずつではありますが元の生活に戻しています。

過ごしやすい空間づくりのために

- 居室には必要な物のみを置く様にして、ある程度ゆとりのある空間スペースを作り、ご利用者に安全に移動していただけるようにしました。
- 毎朝、自然の光と風を取り入れ、居室全体が明るく居心地良い安らぎやぬくもりを感じて頂ける様な空間作りを行いました。
- ご利用者に、その人らしい美しいお姿で過ごして頂けるよう整容に気を配りました。

『職員』という環境を整えるために

- 職員同士の連携については、再度検討するようにした方がいいと感じました。問題が生じる前に、話し合いを行いコミュニケーションが取りやすい環境の整備に努めていきます。
- 職員によっては、業務内容が多いことで長時間労働や残業の原因になっており、負担が生じているため、再度業務の見直しを検討する必要があります。
- 園内の空調設備を確認し不具合のある個所については、新品に交換してもらい快適に過ごせるようにしました。
- 爽やかな挨拶、丁寧な対応と思いやりのある言葉かけをはじめとする、思いやりあふれる接遇に努めました。
- 年間目標を軸として、毎月の目標を掲げ職員全員で達成できることを目指し、毎月

の達成状況を把握します。職員それぞれのレベルに応じ助言・指導を行い意識向上・スキルアップを目指して取り組みました。

技能実習生について

○1期生（特定技能）につきましては、現場には欠かせない存在になっています。職員のサポートは、もちろんご利用様の些細な状態変化にも気づき報告してもらえるまでに成長してくれています。

○2期生につきましては、園の雰囲気慣れご利用者の援助が出来るようになりました。日本語には、まだまだ戸惑う事がありますが職員がサポートしていきます。また、安心して5月の介護技能実習評価試験（専門級）合格を目指して取り組んでいます。

○昨年の暮れより、3期生を受け入れています。日本語も介護技術もまだまだこれからですが、ご利用者や職員に助けられて日々吸収し、7月の介護技能実習評価試験に向けて勉強しています。

安心して過ごして頂くために

○感染症対策につきましては、昨年と同様にコロナ感染が2回ありました。

1回目は、6月3日～12日までの9日間で終息することが出来ましたが3名にご利用者が入院される事になりました。

2回目は、10月末から12月末まで2か月間の風邪症状が治まらず、12月10日からコロナ感染対応し1月25日に終息まで1ヶ月かかり7名の方が入院される事になりました。ご家族には大変ご心配をお掛けすることになりました。

コロナ感染症が5類になり世間では、感染症対策が疎かになっていますが高齢者施設では、毎日の出勤時、業務に入る前に手指消毒、業務前の検温、食堂・居室・廊下・車椅子など手に触れる場所全ての消毒を継続しています。

○スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いをを行い1ケア・1手袋・手指消毒を徹底し感染症予防に努めています。

○新型コロナウイルス感染症等が蔓延した場合の事業継続計画（BCP）の策定に取り組み指針やマニュアルの勉強会を行い職員への周知徹底に努めました。

◎事故防止対策について

引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行いました。事故の総件数は、前年度72件・今年度79件と7件増加しました。今の傾向では転倒事故が多く報告がありましたが、今年は必ず落ち事故が17件と転倒事故より2件多く報告があがっています。また、骨折や入院が伴う重大事故は減少しています。次に転倒事故が15件、転落事故10件と報告されています。事故が起きた場所としては、居室での事故が36件と多く、次に食堂で18件となっています。

ご利用者の方が居室で転倒されている事故が多く、ご自分で何かしようとしたり、トイレに行けると思いバランスを崩されてしまったりする事が一因になっています。今年度もご自分でトイレに行かれ時に、バランスを崩して顔面を打たれ鼻の骨を骨折されてしまいました。

今年度の後半は退所される方、新規のご利用者の受入れと入れ替わりが激しくあ

り、出来る限り新規の面接時の状況やアセスメントを基に事故の予防に努めました。

対策を講じていますが、同利用者の方々の事故が多く見られます。職員は丁寧に衣類の着脱・車椅子の移乗介助をしていますが、皮膚が弱く、少しの衝撃でも皮膚めくれをしています。また、不穏状態の方がベッドよりずり落ちされる事故も多く、今後その方の事故が発生する可能性があると考えられます。(別添資料参照)

◎食事箋（食事形態）の検討や変更については、ご利用者の状況に合わせてタイムリーに行いました。

◎歯科医師、歯科衛生士の助言のもと、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、いつまでも美味しく食事を楽しんで頂けるよう支援致しました。

◎苦情相談対応について

ご利用者やご家族からの要望や相談はありましたが、苦情として挙がる案件はありませんでした。

稼働率について ※別紙資料参照

上半期は 94%平均をキープしていましたが、11 月下旬より年末にかけて施設内看取り、長期入院や死亡による退所が相次いだ上に入院者が多く 12 月 1 月は 78%と 8 割を割る稼働となってしまいました。年明け 1 月より 3 月には 10 名の新規入所者をお迎えし、87.5%と 9 割近くまで盛り返しました。入院者がのべ 120 人以上の月もあり、退所以外での稼働低下要因となっています。(令和 5 年度 91.7%⇒令和 6 年度 89.5% 前年比-2.3%)

経費節減を目指した取り組み

- ・エアコンや電灯のこまめなスイッチオン/オフにて適正使用に努め、備品を丁寧に扱いました。

- ・洗剤等消耗品の適量発注と無駄のない使用を行い、節水に心掛けました。

- ・ご利用者に気持ち良くお過ごし頂ける事を前提とし、オムツ・リネン等の効率的な使用を行い、常にアンテナを張り、良い物があれば都度見直し、業者や出納責任者とも連携を図り、経費節減に努めました。

- ・発注データの価格変更など定期的に更新し管理を行っていましたが業者に管理してもらい毎月の使用量を把握して発注数を固定する事で倉庫から溢れない様に必要な分を毎週発注出来るように取り組みました。

※別紙 2 参照 (令和 6 年度年間行事報告書 特養・ショートステイ) ……P.30

※別紙 3 参照 (特別養護老人ホームあじさい園 利用状況) ……………P.31

※別紙 4 参照 (令和 6 年度事故状況報告 特養) ……………P.33

3 ショートステイ あじさい園

「心身の健康」

ショートステイでは温かい心と丁寧な対応でご利用者一人ひとりに寄り添い、不安を和らげ、心身共にストレスを感じず、生き生きと生活が出来るよう親しみやすい環境作りに努めてまいりました。いつ・どこで・誰が聞いても不快に思わない適切な言葉遣いをする事を念頭に入れ、積極的にコミュニケーションを図り、ご利用者の思いや要望に寄り添えるようにも努めてまいりました。

またご利用者だけでなく、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるよう職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせる事で「また利用したい」と温かいお言葉も掛けて頂き、目標に対しての達成感もあったのではないかと感じています。今後もさらにONE TEAMでより良い施設作りを目指していきたいと思います。

サービス提供について

※年間稼働表率は別紙参照

コロナウイルスが5類型感染症に位置づけられていますが、当施設内にてコロナウイルス感染症の流行もあり、不本意ながら利用予定をキャンセルして頂く等ご利用者・ご家族には多大なる御迷惑をお掛けしました。規制や制限が緩和されるもドライブ等の園外へ出る行事や外部ボランティアによるレクリエーションは実施できず心苦しい限りです。限られた人員の下、各職員で工夫して食事会やおやつパーティーの開催、平行棒や滑車を活用した機能回復訓練の実施やビンゴゲームやトランプゲーム等利用者の皆様には日々の暮らしがマンネリにならないよう努めて参りました。また、顔馴染みのご利用者同士で席を並べる等して思い出話や近況報告等の会話も楽しんで頂けるよう配慮しました。職員一同がおもてなしの気持ちと笑顔でご利用者に安心して過ごして頂き、園での滞在期間を満足のいくものと感じて頂けるようなサービス提供を心掛けました。

事故について

※年間集計・詳細については別紙参照

事故総件数はR6年4月～R7年3月末まで11件発生しており、外傷発見は7件ありました。ヒヤリハット総件数はR6年4月～R7年3月末まで3件の報告がありました。事故や、ヒヤリハットに対する検証や再発防止策については都度、事故防委員会を主とし、検討・実施を行っております。また会議でも再度報告し、情報共有を行っております。

感染症について

今年度もインフルエンザやノロウイルスの蔓延もなく、コロナウイルスも令和5年5月8日以降より感染症の類型が第5類に分類され、規定や制限が緩和されると思われましたが、当施設内にてコロナウイルスが蔓延し、ご利用者とご家族には大変なご迷惑をおかけしたと思います。また季節の変わり目等で体調を崩されるご利用者や、職員自身の疲労もあり、体調管理が不十分で欠勤・早退が見られました。感染症対策については、入所前の電話連絡時にご利用者とご家族の体調確認をさせて頂く・送迎時に体温測定を行い、園に到着直後手洗い・うがい・消毒をしてもらい食堂に誘導し、園にウイルスを持ち込まないように努めました。また毎日マスクが交換出来る体制を取り、感染予防に努めました。また感染症の勉強会やスタンダード・プリコーション

の重要性を職員に周知徹底を行い、全職員が迅速な初期対応出来る様にスキルアップに努めました。

苦情・相談について

苦情・相談受付総件数は R6 年 4 月～R7 年 3 月で 0 件でした。
面接時の説明を丁寧に行ってきたことや、こまめにご家族や、ご利用者とコミュニケーションを図り、要望や訴えにチームとして取り組んできた結果でもあります。寄せられた内容には真摯に取り組んで行きたいと思います。また声に出されない不安や意見についても心配りを行ってまいりました。

※別紙 6 参照（ショートステイ 年間稼働率表）……………P.37

※別紙 7 参照（令和 6 年度 ショートステイ 事故状況報告書）……………P.38

4 医 務 室

医務室業務として、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、職員の労働災害の予防対策、メンタルケアに努める事です。

特養ご利用者の健康管理は週 2 回の内科医の往診で定期診察をして頂いております。皮膚科は月 1 回の往診、歯科も必要時診察して頂いております。ご利用者の疾病が高齢化と共に増加し、定期診察以外にも医療機関の受診も多くなりました。

- ・体調不良、外傷などで医療機関受診 延べ 161 名

- ・定期診察以外の体調不良時の往診 131 名

- ・入院 特養 延べ 58 名

- ・発生症状

脳梗塞 2 名 誤嚥性肺炎 9 名 肺炎 12 名 間質性肺炎 1 名 呼吸不全 1 名 心不全 9 名 慢性うっ血性心不全 1 名 心筋梗塞 1 名 胆嚢炎 1 名 急性胆管炎 2 名 急性膵炎 1 名 肝機能障害 1 名 腎機能障害 1 名 急性胃腸炎 1 名 食欲不振 1 名 意識障害 1 名 一過性脳虚血発作 1 名 眩暈症 1 名 高ナトリウム血症 3 名 低アルブミン血症 3 名 不明熱 1 名 ウイルス性発疹 1 名 蜂窩織炎 1 名 上腸間膜動脈症候群 1 名 コロナ感染 10 名

- ・救急搬送 特養 16 名

- ・あじさい園看取りでのご逝去 6 名

- ・急変によるご逝去 2 名

- ・病院でのご逝去 4 名

- ・病院療養継続のため退所 7 名

上記以外にも時間に関係なく医療関係の先生方には電話での対応もして頂きました。ご利用者のバイタル測定、食事摂取、入浴、排泄など日々の係りにより異常の早期発見に努め、夜間の救急搬送を防ぐ為にも日中での早期発見、判断、対応をさせて頂きました。

今年度もご利用者と職員の健康診断、コロナワクチン、インフルエンザワクチン接種を行い、産業医と連携を図りアドバイスを頂き心身の健康管理を行い、する安全で安心して働ける環境を整え安全衛生にも取り組みました。

令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症が5類になり以降、規制、制限の緩和の方針となりました。世の中はほぼ日常を取り戻したように見えますが、私達は引き続き緊張感を持ち、ワクチン接種、体調管理、日々の環境整備、消毒、換気、感染マニュアルの把握、持ち込まない対策、早期発見、拡大防止対策を行っていましたが、6月入居者様3名、7月職員2名、12月～1月入居者様13名、職員2名のコロナ感染がありました。病院、先生方にもお力添えいただき、無事に回復されお元気に過ごされております。インフルエンザ、ノロウイルスなどの発症はありませんでした。今後ともより一層努めてまいります。

令和6年度法人目標 「心身の健康」

病気ではない事がイコール健康ではなく、心も体も健やかで社会的にも良好な状態でなければ健康とは言えません。健康な状態を維持するには、食生活、運動、休養といった3つの要素が必要で、栄養、食生活は生活習慣病に関係し、生活の質に影響します。運動は健康の維持増進につながり、休養は疲労回復、ストレス対処に欠かせない要素で、心の健康を保つために大切です。また睡眠は疲れた心身を回復し、心穏やかにし適切な判断力を維持する事が出来ます。私達看護師は、心身共に健康でなければ十分な仕事が出来ません。不健康な状態では注意力が散漫になり、重大なミスにつながると常に念頭に置いておかなければなりません。私達は自分の健康管理をしっかりし、ご利用者が安心して看護を受けられるよう努め、人生の先輩として尊敬し、尊厳を守り、苦痛を取り除き、安心して過ごして頂ける様努めさせていただきました。

5 栄養士・調理師

食事提供について

ご利用者が安全に楽しく食事を摂り、健康の維持につながるようにとの思いで毎日の食事提供をしてまいりました。おいしい食事の提供を基本としながら、ご利用者の皆さまに「食べる楽しみ」を感じていただけるよう取り組んでいます。

安全に召し上がっていただくために、主食・副食とも食事形態をいくつかの段階に分けて提供しています。主食は、米飯、おにぎり、軟飯、全粥、粥をペースト状にしてゲル化剤を添加したソフト粥です。副食は、食べやすい食材を使用し、やわらかく調理した普通食、一口大、刻み、超刻み、口腔内でばらけず嚥下しやすいように、あんかけやとろみ剤を使用した刻みとろみ食、副食をミキサーでペースト状に調理したペースト食、また、ペースト状にしてゲル化剤を添加したソフト食があります。

味へのこだわりはもちろん、旬の食材や盛り付けなど、少しでも彩り豊かになるよう工夫をしました。季節を感じられる献立や、温かい物は温かく、冷たい物は冷たくという食事を大切にして調理をしました。嚥下力など状態に応じて適切な調理方法をとるだけでなく、お誕生日メニューや、食事会、手作りおやつレクなど、月に数回食べる楽しみをもっといただける機会を設けています。また、アンケート調査を通じて

ご利用者の嗜好を把握し、献立内容の見直し、改善に努めています。

毎月の給食会議で出された各部署からの意見、要望などを厨房会議で検討し、改善に努めています。これからも食事形態や栄養バランスにも配慮し、医師・看護師・介護職員・ケアマネジャー・歯科衛生士と連携しながら、ご利用者の身体状況や摂取状況に応じて食事内容や栄養補助食品の提供などを行い、健康の維持に努めます。

近年取り上げられるフードロスに関してあじさい園でも、真摯に受け止め減らす努力をしてまいりました。今年度以降も引き続きフードロスを減らせるよう努めていきます。食事内容を充実させ、ただ栄養を満たすだけでなく、ご利用者の生活に彩りを添え、心の健康にも寄与できる食事提供を目指してまいります。

衛生管理について

厨房内の衛生管理においては、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づき、手洗いや器具の消毒、食品の温度管理などを徹底し、食中毒・感染症予防に努めました。研修などを通して、衛生管理に関する知識を高め、食事提供者としての自覚を持ち、自己の健康管理にも留意しました。定期的な職員研修や、安全衛生チェック、害虫駆除などを継続し、安心・安全な食事提供体制を維持していきます。

食中毒や事故報告はなくとも、異物混入などのヒヤリハット報告がありました。今まで以上に、より安全安心な食事提供を行わなければならないと実感しています。今後もヒヤリハットや事故の報告があれば、厨房内で調査・検証し、再発の予防に努めます。

感染症・災害時の対応について

新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策として、食器の消毒強化、配膳時の飛沫防止、スタッフの体調管理を徹底しました。感染症が発生した部署には、感染対策マニュアルに沿って、使い捨て容器を使用した食事提供を行い、蔓延防止に努めました。

BCP に基づき、災害発生時などの緊急時にも継続的に食事提供ができる体制づくりに努めました。非常食や水、使い捨て容器の確保をしています。ソフト食やペースト食の方の非常食については 以前よりも賞味期限の長いものを選び、管理し易いように努めました。リストをもとに、非常食の賞味期限の確認と補充、備蓄品の点検を継続して行いました。

BCP シュミレーションとして、停電時に使用可能な電気製品の確認を行ないました。また、全部署の職員が参加し、非常食の保管場所の確認や、実際に非常食を作り試食をしました。研修を通して重要性を再確認でき、備蓄している非常食に対する理解や、防災意識向上になったと思います。今後も、災害時に想定される課題を見つけ出し、対策に繋げていきます。

栄養ケアマネジメントについて

特養ご利用者全員を対象に栄養状態を把握し、低栄養状態の予防、早期発見に努めると共に、低栄養のリスクが高い場合には食事形態の変更や栄養補助食品の提供など、柔軟な対応に努めました。栄養ケア計画を作成することで、ご利用者の体調や身体状況について把握し、各分野の職員と協力して健康管理を行いました。

ご利用者の個々の状態に合わせて、嗜好に考慮した食事や疾患に対応した療養食を提供しました。認知機能や摂食嚥下機能の低下により経口摂取が困難となっても、自分の口から食べる楽しみを得られるように、摂食嚥下機能に応じた食事形態や、身体機能に応じた器具の選択をしています。「食」の関わりを大切に、最期までその人らしい「食」が継続できるよう、今後も多職種と協力していきます。

令和6年度 法人目標 心身の健康を振り返って

食べる事は生きるために必要な本能です。健康的な体を保つには栄養を摂取しなければいけません。しかし、栄養が必要なのは体だけではないと思います。心を健やかに過ごすためには、心にも栄養を与えることが必要です。法人目標である「心身の健康」を達成するため、“食を通じた健康づくり”を意識し、美味しい・楽しい・幸せといった感情を感じて頂けるよう、柔軟な食事提供に努めました。行事食や旬の食材を使ったメニューなど、視覚・味覚の両面から楽しめる食事を心がけ、ご利用者の笑顔や「美味しい」という声を多く頂く事ができました。

「食べる」という側面から、ご利用者をサポートし、食べる楽しみ・喜びのある暮らしとなるよう努めてまいります。

R6年度 年間提供食数

	特養	ショート	ケア	グループ	デイ	配食
年間食数	52,917	7,371	20,006	17,771	5,593	1,435
1ヶ月平均	4,409	614	1,667	1,480	466	119
1食平均	49	7	19	16	18	4
年間総数量	105,093					

食種別食数 令和7年3月31日現在

	特養	ケアハウス	グループ	合計	割合
普通食	7	15	12	34	40%
刻み食	13	5	1	19	22.3%
超刻み食	2	1	0	3	3.5%
トロミ食	14	0	2	16	19%
ソフト食	5	0	2	7	8.2%
ペースト食	6	0	0	6	7%
経管	0	0	0	0	0%
合計	47	21	17	85	100%

R6年度 栄養摂取基準

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1,350kcal	55g	33g	7g未満
ケアハウス	1,450kcal	60g	35g	7g未満

R6年度 実給与栄養量

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1,462kcal	55.9g	37.8g	7.5g
ケアハウス	1,475kcal	56.9g	39.8g	7.5g

6 歯 科 衛 生 士

オーラルフレイル予防で健康長寿を目指し、口から食べることを中心とした、口腔機能の低下予防が大切です。「お口は人生の入り口」とも言われ、食べる、しゃべる、呼吸する、表情をつくる、とさまざまな働きがあります。歯を大切にすることはもちろんですが、筋肉である口唇、舌、頬の機能向上も大切です。

オーラルフレイルとは、高齢に伴い、歯数や口腔機能の低下、さらには、社会的、精神的、身体的な能力の低下も重なり、さらに弱くなった状態ですが、オーラルフレイルは可逆的であるため予防が大切です。健康長寿のための3つの柱としては、栄養（食、口腔機能）、身体活動（運動、社会活動）、社会参加（就労、余暇活動、ボランティア）です。歯科衛生士としての専門的な口腔ケアの介入によりオーラルフレイルの予防を実践し、「心身の健康」を維持できるよう努めました。

全事業所のご利用者の口腔ケアに法人所属の歯科衛生士が直接関わり、他職種へのアドバイス、歯科医師との連携により、健康な口腔環境を継続できるようつとめ、う蝕や歯周病への対応だけでなく、義歯の専門的管理、扱い方や手入れの指導助言、生活の質を大きく左右する、おいしく食べる、楽しくおしゃべりする、口の働きを維持するために大切な唾液を守ることを目標に、嚥下機能を保持するための歌・舌体操・DVDによる口腔体操などの口腔リハビリテーションを行いました。

7 特別養護老人ホーム あじさい園宝

法人目標 『心身の健康』を振り返って

ご利用者の心身の健康を維持するためには、私たち職員が心身ともに健康で仕事に臨むことが大切と考え、各部署が協力し、お互いに思いやりの気持ちを忘れずに、笑顔で仕事ができるように努めました。高齢であるご利用者は、日々変化する心と身体と向き合いながら生活しておられます。馴染みの職員がそっと寄り添い、声掛けを行うことで、安心して穏やかな生活を送っていただくことができ、それがお一人おひとりの心身の健康の維持に寄与していると思います。開園から10年が経ち、試行錯誤しながらも法人の基本理念、運営理念に沿ったサービス提供ができるようになり、これまでの経験の蓄積が職員の自信にもつながっています。次の10年を見据えた際、ご利用者の高齢化と医療的ケアのニーズの増加が予想されます。時代の変化に柔軟に対応できるよう、学ぶ姿勢を常に持ち、より良いサービス提供ができるような施設運営に取り組んでまいります。

○行事報告

外部講師の先生を招いての定期的な行事や、季節のコンサート、地域のこども園との交流会を開催いたしました。また、お誕生日会やクリスマス会、節分の豆まき、おやつレクリエーションなど、ユニットごとの行事も行い、ご利用者と職員が一緒に季節の行事を楽しみました。「のこのこたより」を毎月発行し、ご利用者、ご家族、地域の方々にも広くあじさい園宝の運営状況を知っていただけるよう情報発信を行いました。ご利用者のお元気な様子をご家族にお届けすることで、安心・安全な利用につながっています。

○人材育成

実務経験3年を満たす介護職員には介護福祉士国家試験を受験し、キャリアアップをはかっています。介護・医療系の資格を持たない介護職員に対しては、認知症介護基礎研修を受講していただき、基礎知識を身に付けていただけるよう支援しています。基礎疾患を持つ高齢者が増えるにつれ、介護職員に求められる介護・医療に関する専門知識や手技はより高度なものとなっており、入職後の継続的な研修や実習等のサポート体制の構築をより一層充実させてまいります。介護福祉士資格取得を目指す職員も年々増え、外国人技能実習生も日々勉強に励んでいます。認知症介護基礎研修、実践者研修、ユニットリーダー研修の積極的な受講も引き続き支援してまいります。引き続き職員一人ひとりの目標設定を明確にし、ご利用者に質の高いケアを提供するために、自分自身に今何が必要なのかを考え、行動に移せる人材育成を目指します。

○医務室より

高齢のご利用者は様々な疾患を併せ持ち、体調の変化に気付いた時には重篤化していることが少なくありません。日頃の変化の様子を知るために、ユニットミーティングに参加する機会をもち、ご利用者の日頃の変化や困ったことなどを看護師の視点でも一緒に考え、必要な医療との連携を取れるように取り組みました。

令和5年度に開園したグループホームでは、初めて新型コロナウイルス感染症がご利用者に感染しました。初めて感染症に対応する職員も多く、また認知症という疾患から隔離での療養も難しく、感染が拡大してしまいました。感染終息後に介護職員、看護職員でミーティングを行い、感染経路の予想と、対応の反省点などを意見交換しました。スタンダードプリコーションの徹底、手指消毒や環境消毒の手技や重要性も一緒に再確認しました。

歯科では、ご利用者がお口の痛みや義歯の不具合なく、安全にお食事をしていただける口腔環境の維持を目標にしています。認知症で義歯がうまく使えなくなったり、食べ物をうまく咀嚼することができずに嚥下することがあるため、安全な食事形態について多職種で話し合っています。その際、ご本人が希望する食事形態を尊重できるよう、介護と医療の連携を大切にしています。ご利用者お一人おひとりにどのような支援があればご自分でも口腔ケアができるのかを常に考え、介護職員とも情報共有しながら自立支援につながる口腔ケアを行っています。また、歯科衛生士学校の実習生を受け入れ、介護現場での口腔衛生管理の重要性を学んでいただくことにも力を入れており、毎年続けていけるよう努めます。

○栄養士、調理師の取り組み

面会規制が緩和し、外出も出来るようになりご家族とご利用者との触れ合う時間が多く笑顔が増え、心身ともに豊かになっていると思います。毎日食べる食事の中で楽しさを感じていただきたく、厨房職員や他職種とカンファレンスを行い食事のイベントを積極的に行いました。毎年人気のお寿司のオーダーバイキングはもちろん、嗜好調査で人気の高い「お刺身」と「すき焼き」の『選べる献立の日』を行いました。今年は初の試みとしてカレーに好きな物トッピングを3種類選んでいただき目の前で盛り付けをして提供しました。色々な種類の中から好きな物を選ぶ自己決定の機会を作り選ぶ楽しさを大切にしています。

食事は単なる栄養摂取だけではなく、人とのつながりや季節を感じることが出来ます。園で作った作物はご利用者に「どんな料理で食べたいですか？」と会話をし、なるべくリクエストに応じて提供するようにしました。「もうそんな季節か、美味しいわ」や「好きな料理にしてくれてありがとう」などの言葉が聞かれ、思わずこぼれる笑顔も見ることが出来ました。食事を通してご利用者の笑顔が増え、心身共に健康に過ごしていただけるように努めました。今後も園での食事にご利用者の意見や嗜好を取り入れ、盛り付けや色合いを工夫し、味や見た目の改善に努め、より良い食事の提供を行う事で楽しみや生きがいにつなげていきます。

・栄養ケアマネジメントについて

高齢になると栄養状態が悪くなりやすい為、ご利用者個々の健康状態や体重減少率、ADL、食事摂取量、栄養補給法、褥瘡の有無を把握することで、低栄養に陥るリスクがどの程度かを低リスク・中リスク・高リスクに分けて判定します。そして食事の嗜好、食事形態、嚥下状態、自力摂取可能かを評価し、さらに薬の内容について他職種と情報交換を行い、栄養についての課題を明らかにしご利用者個々に必要な栄養改善に対する目標と計画を決定しました。

特養 49 名在籍中に低リスクが 16 名、中リスクが 25 名、高リスクが 8 名いらっしゃいます。割合としては低リスク 32.6%、中リスク 51.0%、高リスク 16.3%となっています。低リスクの方はその状態を維持し、中リスクの方は低リスクになるように、高リスクの方は中リスクを目指して栄養改善の為に計画を作成し改善に努めます。年々高リスクの方が増えており日々の体重の増減や食事摂取量・嚥下の状態をしっかりと他職種と情報交換していきます。

栄養管理を行う上で個別に対応しているのは食事形態です。ご利用者の年齢が上がるに伴い普通食を食べる方が減り、嚥下調整食が必要な方が増えてきています。現在は普通食、一口大、刻み食、超刻み食、ソフト食、ペースト食を個人の嚥下状態に合わせて提供しています。主菜は刻み食を食べている方でも葉物類をしがんでいる方には副菜のみソフト食にするなど状態に合わせたオーダーメイドの食事を提供しています。主食はご利用者のその日の状態に合わせてユニットで米飯やお粥、米飯とお粥を混ぜて軟飯にして提供したりしています。お粥でもむせ込む方にはソフト粥に変更しています。

ミールラウンドを行い食事時の姿勢や摂取・嚥下状態、摂取量を観察し、他職種とカンファレンスを行い、食事形態をより細かく見直し提供しています。食事の進みが悪い方はご家族にご協力いただき、食べ慣れた物や好きな食べ物を差し入れしていただきご利用者自身の食欲を引き出すように心がけています。食事量が少ない方や褥瘡がひどい方は他職種とカンファレンスを行い個々にあった栄養補助食品をご家族に提案し一番良いものを提供しています。

看取りケアのご利用者は食事摂取量が少なくなる為、食べたい物や好きな物を尊重してご家族に持参してもらい、一口の食事が好きな物である幸せを大切にしています。栄養ケアマネジメントを行うことで栄養状態を把握しさらに、ご利用者やご家族とも話す機会が増え自宅での食事の様子、嗜好や意思に寄り添うことが出来ました。

・食事提供について

食事については出来るだけ口から食べていただきたい、美味しいと感じていただきたいという思いで提供しています。「温かいものは温かく」「冷たいものは冷たく」という食事をおいしい状態で食べていただくよう努めました。また毎月給食会議で他職種からの意見、要望などに対して厨房会議で話し合い対策を検討しフィードバックしています。

またご利用者の自力摂取を促す為に他職種とも話し合い食べやすいようにサイドテーブルや台を使用し高さの調節を行い、グリップ付きのスプーンや傾斜や滑り止めの付いた自助食器を使用しています。感染症が発生した場合は看護師・介護主任の指示のもとディスポ食器の対応に変更しスムーズな食事提供に努めました。

・安全な食事・衛生管理について

食中毒及び感染症予防に努め、安全かつ安心な食事提供を目標としてきた結果、食中毒事故もなく無事に提供することが出来ました。今後も調理従事者としての自覚を各々がしっかり持ち健康管理も仕事のひとつとして努めます。配膳ミスなどのケアレスミス無くすためにもダブルチェックを継続していきます。

・非常食について

災害時に備えて非常食を備蓄しています。近年、地震や自然災害が増えている中、BCP の訓練を兼ねてご利用者や職員に非常食を食べていただく機会を作りました。カップラーメンとα化米のごはんとお粥を作りました。カップラーメンは実際に厨房ではなくフローでガスコンロを使用しお湯を沸かしてカップラーメンを食べていただきました。嚥下調整食の方は長めに蒸らしたりしキッチンほさみで切るなどして提供しました。

α化米は職員が備え付けのキットでごはんとお粥を作りご利用者に食べていただきました。今回は水ではなくお湯を使って作りました。実際に作ってみて分かったことは、ご利用者が食べやすいお米の硬さの「水の量」や「蒸らし」の時間でした。その他にも沢山の発見があり他職種とも意見交換ができる貴重な体験でした。他にも日頃から食べ慣れている食品のローリングストックを行い無駄のないように心がけています。

年間提供食数

	特養	ショート	グループホーム
年間食数	51,703	7,938	18,629
1 ヶ月平均	4,308	661	1,552
1 食平均	46	7	17
年間総食数	78,270		

食種別食数 令和7年3月31日現在

	特養	ショート	グループ	合計	割合
普通食	6	1	15	22	30.6%
刻み食	28	6	2	36	50.0%
超刻み食	9	0	0	9	12.5%
ソフト食	3	0	0	3	4.17%
ペースト食	2	0	0	2	2.78%
療養食	0	0	0	0	0%
合計	48	7	17	72	

令和6年度 栄養摂取基準

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1400kcal	50g	35g	240g	7g 未満

令和6年度 実給与栄養量

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1346kcal	52.3g	35.5g	200.1g	6.3g

○事故防止対策

居室、フロアでの転倒事故が多くみられました。特に、起床後、就寝前や食後の時間帯に多く、歩行器を使用し移動している方や車いすに移乗する際に転倒している方も多く見られました。ご利用者が居室で荷物の整理をしたり、ご自分でトイレに行かれる際に転倒等の事故が多く発生しています。

ヒヤリハットは、居室やフロアでの転倒未然が多く報告されています。フロアで立ち上がりの際にふら付きが見られたりすることもあるため、立ち上がりの際は近くで見守りを行い転倒防止に努めます。

ユニットケアの特性上、居室内での転倒事故報告が多く、夜間帯は他のご利用者の介助中はユニット全体を見守ることが難しい場合もあります。見守りセンサー等も活用し、細心の注意を払ってユニット全体の見守りを行い、事故防止に努めます。記録をしっかりと取り、個々の排泄や就寝のリズムを読み取り、特に夜間帯の移動時に見守りやトイレ誘導を行うことで、防げる事故があることを共有します。

ユニット内でのリハビリテーションや、園内の散歩で筋力の低下を防ぎ、事故防止を図るとともに、ご自身でできることは積極的に行っていただき、ADLの維持・向上にも努めます。事故発生時の初期対応の迅速化と、原因の検証、多職種での再発防止対策を常に意識して実行し、事故報告書は正確な情報を記入し、早急に情報共有することを周知徹底いたします。ご家族にも事故状況やその後の経過を分かりやすく説明し、ご理解いただけるように職員研修も行いました。

報告件数

	事故	ヒヤリハット
転倒	113 件	5 件
転落	30 件	1 件
外傷	23 件	1 件
ずり落ち	13 件	4 件
誤嚥・誤飲・誤食	9 件	1 件
抜去	1 件	0 件
離設	2 件	0 件
暴力	8 件	0 件
薬剤	0 件	0 件
器物破損	0 件	0 件
周囲への迷惑行為	17 件	0 件
その他	113 件	4 件

○感染症防止対策

手洗い、マスク着用、手指消毒といった基本的な感染症対策を日頃から心がけました。また、感染症を持ち込まない、広げないという意識を職員一人ひとりが持ち行動

しました。しかし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが流行し、ご利用者と職員に感染者が出ました。居室対応をすることで、ご利用者の活動範囲が狭くなり、短期間でも ADL が低下する場合があるため、医務室を中心に各部署が連携して迅速な対応を取り、早期に終息するよう努めました。

○苦情対応

ご利用者やご家族から職員の対応や、サービス内容に関するご意見をいただきました。特にショートステイのご利用者からの、職員の対応についてのご意見を多くいただきました。共同生活の場では、皆が居心地よく過ごせる環境づくりが必要です。ご利用者の中には認知症の方もおられるため、行動心理症状への理解を深め、その日その時の状態に応じた声掛けができるように努めました。今後も、一つ一つのご意見に真摯に向き合い、問題解決に向けて迅速に対応し、サービスの質の向上につなげます。

○ICT 化

介護記録の ICT 化により、ケース記録や食事、水分、排泄記録をタブレット端末を用いて入力しています。手書きの時よりも記録に要する時間が短縮でき、ご利用者と向き合う時間を多く確保できるようになりました。外国人職員にとっても、記録の負担が少なく、日本語の勉強にもなっています。介護職、医療職、ケアマネジャー、栄養士が各専門分野の情報を共有し、ご利用者にとって最適なサービスが提供できるよう努めました。

○看取りケアを振り返って

令和 6 年度は、8 名の方があじさい園 宝で最期を迎えられました。

元気な頃のご本人のご意向やご家族のご意向を伺い、看取りケアをさせていただいております。

ご本人の好きだった食べ物をご家族に差し入れていただき、好きな音楽を流して過ごしていただきます。その人がその人らしく最期までお過ごしいただけるよう、ご家族、ユニットスタッフ、看護師等多職種で話し合って支援しています。居室は個室になるため、ご家族とのお時間をたくさん過ごしていただきました。ご家族からは、たくさんの温かいお言葉や感謝のお言葉をいただきました。令和 7 年度も、ご本人とご家族のご意向をしっかりと伺い、その人らしく最期まで穏やかにあじさい園 宝でお過ごしいただけるよう努めます。

※別紙 9 参照（令和 6 年度 行事報告 あじさい園宝）……………P.42

※別紙 10 参照（特別養護老人ホームあじさい園宝 利用状況）……………P.43

※別紙 11 参照（令和 6 年度 あじさい園宝 苦情相談対応報告書）……………P.45

8 ショートステイ あじさい園宝

ご家族ごとに異なる利用ニーズに応え、ご利用者が心身ともに健やかに過ごせるよう居宅介護支援事業所、地域包括センター等関係機関との連携しながら、自分らしく

生きたいお気持ちに寄り添える支援に努めました。

短期入所生活介護はご利用者の居宅での日常生活を基本として、ご利用者個々の自己実現に配慮したうえで、ご本人の意思や生活習慣、人生観を尊重しつつ、可能な限り自分らしい清潔な暮らしを営めるよう、入浴、排泄、食事等の支援と介護、健康管理、その他日常生活上の世話・支援を行います。ご利用の目的、日数も様々ですが、ご利用を通じてご本人の心身機能の維持・回復並びに、ご家族のご負担の軽減を図ることができるように努めました。

利用相談をいただく際の利用目的は、介護者の仕事や通院などで自宅での介護が困難な時、介護者の休息が必要な時（レスパイトケア）、施設への入所前に施設生活に慣れるためなど様々です。令和6年度の利用の中には介護度が比較的低いの方の利用もあり、在宅生活の継続の上で幅広くお使いいただいているものと考えております。施設利用が初めての方には、より丁寧に施設での暮らしについてお伝えし、また適時施設見学にも対応するなど、事前に可能な限りの具体的な情報を発信し、安心してご利用いただけるように留意しました。

ご利用前にご本人と面談、ご家族のご意向を確認、本人の状況に合った受け入れ準備をご家族の協力を得て進め施設サービス利用となりますが、急な環境変化に混乱され、また転倒事故につながったこともありました。全てのご期待には沿えませんでした。ご本人、ご家族が抱えておられる課題に在宅の介護支援専門員と共同で、時に医療機関の専門医、施設が多職種が連携してご本人の笑顔と健やかな暮らしの確保に努めたことは、令和6年度法人目標である「心身の健康」の実践において、ご本人、ご家族の気持ちに寄り添い、自分らしく元気に過ごせるようそれぞれの持ち場立場で向き合い続けた日々であったように思っています。

今年度の取り組みを振り返り、お寄せいただいたお声を次年度に活かし、引き続き丁寧かつ分かりやすい相談援助に留意すると共に、多様なご希望に沿う創意工夫を重ね、更なる稼働率の向上を目指します。

令和6年度利用延べ人数 2,843名 年間平均稼働率 77.89%

月間利用者数 稼働率													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	のべ
男	82	115	113	103	127	131	107	96	108	75	19	71	1147
女	143	120	149	146	131	123	162	135	120	118	144	205	1696
合計	225	235	262	249	258	254	269	231	228	193	163	276	2843
稼働率	75.00%	75.80%	87.33%	80.32%	83.22%	84.66%	86.74%	74.51%	73.54%	62.50%	58.21%	89.03%	77.89%

利用者平均要介護度男性 2.8 女性 3.0 平均年齢男性 87.5 歳 女性 91.6 歳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	2.6	3.4	2.7	3.2	3.1	2.9	2.5	2.6	2.1	2.4	2.7	2.8	2.8
女	3.3	3.2	2.9	3.0	2.8	2.9	2.8	2.9	2.9	2.9	3.5	3.3	3.0
平均	3.0	3.3	2.8	3.0	2.9	2.9	2.7	2.8	2.6	2.8	3.4	3.2	2.9

【事故報告】

令和6年度ショートステイの事故件数は42件。慣れない環境下での転倒、車いすからの転落事故が多く見られた。事前面談時のアセスメント情報を職員間で共有して

いるが、ご利用者の生活リズムを把握する前段階での事故は想定外のことも見られた。対策として一定のリスクを想定して居室の配置、フロアの席位置を本年度同様に考慮し、起床介助時、就寝介助時など見守りが届きにくい時間帯では転倒、転落事故に至るケースを可能な限り防いでいきたい。

安心してお過ごしいただく上からも、ご本人のお好きなもの、お手紙の用意などご家族の支援を受けての対策は一定の事故予防効果も見られる。ご家族のご理解、ご協力も得て、安心安全のサービス提供に努めていきたい。

事故内訳	
転倒	27
転落	3
外傷	3
誤嚥・誤食	1
抜去	1
薬剤	3
ずり落ち	2
そのほか	2
計	42

9 グループホーム あじさい園宝

グループホームあじさい園 宝では、ご利用者と職員が馴染みの関係を築き、その人らしい暮らしの継続を支援しております。

運営推進会議は、対面開催が4回、書面開催が2回でした。前年度と同じく、地域の自治会の方、地域包括支援センター、ご利用者ご家族に参加していただきましたが、令和6年度は、毎回、ご利用者にも参加していただき、研修への参加や園での生活の様子や感想をお話ししていただきました。ご利用者にご参加いただくことで、会議の雰囲気も和やかになり笑顔でにぎやかな場になりました。地域包括支援センターからは、地域の認知症カフェのご案内をいただきましたので、ご利用者と参加したいと思います。

3月末には、Nネットによる外部評価を受け、外部評価がどのようなものであるかを職員間、ご家族に今以上に周知すること、園主催の外出を増やすことが次回に期待されるという報告をいただきました。令和7年度は、ご家族も一緒に参加していただける行事を計画し、ご利用者、ご家族、スタッフも一緒に笑顔で過ごせるように努めます。

※別紙 12 参照（令和6年度 行事報告 グループホーム あじさい園宝）……P.47

※別紙 13 参照（令和6年度 利用状況 グループホーム あじさい園宝）…P.48

※別紙 14 参照（令和6年度 事故発生状況 グループホーム あじさい園宝）P.49

10 グループホーム あじさい園

「心身の健康について」

日頃からご利用者にあたたかく向き合い体調、状態の変化に敏感に反応し職員同士で情報を共有し塩田医師をはじめ、その他の医療機関への受診を通じてご利用者の健康管理に努めてまいりました。感染症のクラスターも発生しました。ご利用者、職員の感染拡大を抑えながら日常生活維持継続の難しさも経験しました。終息後は反省会を開いて、感染症対策に活かしております。

余暇活動に関しましては大型テレビの購入により動画機能を使つての体操、歌謡曲鑑賞など楽しみが格段に広がり積極的に声を出してもらい、ご利用者の笑顔や活動量が増えました。ただ動画に頼りすぎずに職員が主体となってお一人おひとりの個性に合わせ出来る事を見出し考え有意義な時間を過ごしてもらうことも大切であると思います。

「運営推進会議について」

コロナ禍の安定に向けて対面による運営推進会議が行えるようになりました。社会福祉協議会の方にも参加していただき地域の皆様にグループホームの運営状況の報告、熱中症や認知症についての研修を行い、田原地域の実情などを話し合い改めて地域の皆様に支えていただいていることを実感しました。今後も地域に根差した運営ができるよう努めてまいります。

「職員一人ひとりが学び、成長し信頼できる関係づくり」

緊急時の対応や感染症、災害時について学んできました。緊急時こそスピード感、知識や経験そして一人ひとりにおける役割、信頼関係が重要であると感じました。どんな事態でも学ぶことがあり、身をもって経験したことを糧にして、実践に活かしたいと思います。

※別紙 15 参照（グループホーム あじさい園 行事運営）……………P.50

※別紙 16 参照（グループホーム あじさい園 利用状況・事故状況）…P.51

11 デイサービスセンター あじさい園

◇法人目標「心身の健康」

昨今、世の中ではコロナウィルスの流行が落ち着きを見せ。街も以前と同様の賑わいが戻りつつあります。一方、福祉施設サービスにおきましては、以前と変わらず、感染症に対する緊張感があり、ご利用者及びご家族には引き続き感染症予防にご協力をいただいております。昨年度、あじさい園はご利用者の「心身の健康」を目標といたしました。マスクの着用により、ご利用者の表情を汲み取りにくい中、笑顔心を心がけ、来園下さった感謝の気持ちを伝え、心のこもったサービスを提供できるように、取り組んで参りました。またお話を傾聴することに重点を置き、体調や感情の小さな変化にも気付

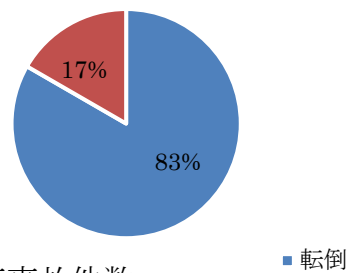
る様気を配る等、より一層「心身の健康」を支える憩いの場所となれる様、努めてまいりました。これからも基本理念である「感謝、機転、謙虚、笑顔、清潔」を接遇に浸透させながら、ご利用者の「心身の健康」祈り、真摯に努力を重ねてまいりました。

◇稼働実績は令和5年度の年間総合計が6069名に対し、令和6年度は5590名となり、令和6年度は前年度に比べて減少しました。

令和6年度も例年同様、冬場に稼働率低下が見られました。コロナウイルス感染の対応は以前より緩和されましたが、職員不足により新規利用者の受け入れが出来ない時期もありました。今後は職員の安定にともない利用者の受け入れ、増加に努め、かつ安全にサービスが提供出来る様に努力していきたいと思います。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を行い、地域の情報等の把握も積極的に行っていきます。

◇事故報告◇

	合計 6 件
転倒	5 件
靴紛失	1 件



令和6年度事故件数

事故件数は前年度より減少していますが、転倒、靴紛失事故がありました。転倒場所はデイルーム、脱衣所、脱衣所前廊下で入浴前後はご利用者も慌てる場合もある為、常時、職員も落ち着いて誘導、介助を行うことを意識し、忙しくても徹底していくこと。靴紛失については、送迎時予定の車でなく別の車で送迎したことが原因でした。日頃のご利用者の状態・行動を興味深く観察し、些細な事でも見逃すことのないよう、適度に緊張感をもって従事する事の大切さを念頭に置き、職員同士の報告・連絡・相談を心がけ、今後も事故のないよう技術向上に努めていきます。

※別紙 17 参照（令和6年度行事報告 デイサービス）……………P.52

※別紙 18 参照（令和6年度 デイサービス 利用者総合計・平均・稼働率）……………P.53

12 ケアハウス あじさい園

法人目標「心身の健康」について

今期の法人目標である「心身の健康」実践のため、職員一同懸命に努めてまいりました。

ご利用者の皆さんは歳を重ねて来られ、ご自身のお身体が思うようにならない方々が段々増えてこられました。病気のこと・心のこと・これから先のこと・今のこと、人それぞれ思うことは違っても、多くのご利用者さまが不安を訴えてこられることがあります。

そのような方々の不安な気持ちに寄り添い、丁寧に聴き取ることを繰り返し、少しでも心が軽くなるよう努めてまいりました。職員の引継ぎノートを振り返ると、ご利用者の皆様の心や身体の健康に関する申し送りがとても多く記載されています。職員が一丸となって皆様の心身の健康を守ろうとした証だと感じました。

今年度は感染症罹患患者発生による感染症対応が3回発生しました。新型コロナウイルスも5類に指定されていますが、高齢者にとってはまだまだ怖い感染症であることは否定できません。これからも常に感染症対策を意識して、職員を含めケアハウスの皆様の心身の健康増進のため努めてまいります。

令和6年度を振り返って

令和6年度のご利用状況は、入居者6名で退去者は6名の内、施設入所2名・入院1名・在宅復帰1名・ご逝去2名でした。

月平均入居者数は21名で、稼働率70%で、平均年齢は86歳、平均介護度は1.0でした。

事故発生件数は22件で、10名の方が発生され、内1名の方は5回転倒され、都度予防策を検討致しました。

1名の方は、夜間園外へ出られ地域の方に保護されたことがありました。対応策を検討し、皆様のご理解ご協力を頂き、門扉を閉める時間を早くするよう対策致しました。

感染症については6月1名・12月～1月4名の新型コロナ感染者が発生し、共に感染源は不明でした。

職員は感染症対応方法の見直しを行い、「ウィルスを持ち込まない」「拡めない」と必死の思いで対応いたしました。また、備品の在庫チェック・確保に努め、緊急時に備えました。

ご利用者の皆様やご家族には大変ご不自由な思いやご心配をおかけいたしました。

入居者の皆様方には体を動かすストレスを溜め込まないようにと、レクリエーションや健康体操・園外散歩等の機会を多く持ちました。

またラジオ体操や食事前の口腔体操も毎日行い、皆様の心身の健康維持と笑顔でお過ごし頂けるよう努めました。

これからも新たな入居者をご紹介頂けるよう、営業活動にも積極的に取り組んでまいります。

※別紙 19 参照（令和 6 年度年間行事報告 ケアハウス）……………P.54

※別紙 20 参照（ケアハウス利用者の状況）……………P.55

13 居宅支援事業所 あじさい園

令和6年度を振り返って

今年度の居宅介護担当総件数（予防支援を含む）は要介護 566 件、要支援委託 115 件、総合計は 681 件でした。

昨年と比べて、要介護 5 件の増加、要支援委託は 61 件の減少、総合計 56 件の減少でした。

要支援委託件数が減少した要因として、途中で状態が悪化して区分変更手続きし要介護状態になったケースが多く見受けられました。

今年度は担当支援期間が短いうちに途中でご逝去（突然死）されたり、同法人の特養に入所されたケースが多かったように感じます。

在宅での看取りが減り状態悪化すると在宅医から病院へ紹介されるケースも増えているのも居宅件数減の要因とも思われます。

法人目標「心身の健康」について

自身の健康だけでなくご利用者・ご家族の健康にも目を配り、ご本人・ご家族の望む生活が送れるように協働してケアプラン作成を意識しながら業務にあたることができました。

月別居宅介護支援担当数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要介護	48	45	48	46	47	49	45	43	49	49	50	47	566
要支援	11	11	9	9	8	8	10	10	10	10	10	9	115
月別合計	59	56	57	55	55	57	55	53	59	59	60	56	681

15 オレンジカフェ すいもん

心身の健康を念頭に、「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる共生社会を目指し、認知症は多くの人にとって身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる場づくりを行いました。

オレンジカフェすいもんは、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩3分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中にあり、掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフが一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気満喫していただきました。地域住民の皆さま、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場、歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を心から楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いも多くありました。

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、介護予防認知症予防健康体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、運営推進会議等、掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、庭に面したガラス戸にはめ込まれた明治ガラスからゆらいで見える庭の風景も楽しめ、ならまち茶室と、すいもんカフェの茶室も雑誌やSNSで紹介されました。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。茅葺きの離れもご利用いただき、沢山のお客様が来られました。

パティシエ手作りのおいしいケーキは、ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ショートケーキ、レモンケーキ、ティラミスケーキ、アップルパイ、フルーツロールケーキ……。パティシエ手作りの好きなケーキのチョイスを楽しんでいただきました。

16 ニコニコタクシー(介護輸送サービス)

地域包括ケアシステムをすすめる中で、奈良市東部山間地域における在宅での生活を支えるためのタクシー事業においては、要介護支援者、要介護度者、さまざまな障がいをお持ちの方が、ひとりでは公共交通機関を利用することが困難な方にご利用いただきます。サービス提供者は全員ホームヘルパー2級・2種免許の有資格者で、安全・安心なサービス提供を心がけました。

心身の健康を目標として、ご利用者やご家族に寄り添い、安全運転につとめ、事故の無いサービスの提供を行い、急なご依頼に対しても柔軟に対応、ご利用者・ご家族・地域の皆さまや関係機関との信頼関係の継続や構築に力を注ぎ、地域共生社会の実現に向け、努めてまいりました。

送迎中やご自宅での介助、受診時においても、ご本人の気持ちと和むよう寄り添う

ことを実行しました。地域の足となり、利用者の皆さまが地域で安心してお暮し頂けるよう、安全第一を心に刻み、迅速な対応を行い、ご利用者との信頼関係を築いてきました。ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりに安心してご利用いただけるようお気持ちに寄り添い、笑顔での挨拶、優しい言葉遣い、敬語の徹底と接遇に気を付け、サービスの提供に努めさせていただきました。移動サービスの提供のみならず、介護支援専門員、介護職、医療機関、看護師等多職種と連携をとり、安心安全で質の高い送迎サービスを心がけました。

17 ハーネ中御門

年度開始時の状況

令和 6 年度の開始当初、5 月に 1 名、6 月にさらに 1 名の退所があり、その結果、6 月時点で空室が 3 室となりました。施設では早期の満床復帰を目指して入居促進に注力し、7 月に 1 名、9 月に 1 名の新規入居が決定しました。その後、3 月にはさらに 1 名の入居があり、年度末には満床（定員 10 名）を回復することができました。

空床の解消と満床の復帰：前年度の退所に加え、令和 6 年度前半にも退所が重なったことで空室が拡大しましたが、段階的な入居対応を経て、年度末には満床に復帰しました。

稼働率の向上：既存利用者の 1 名が継続的に週末も施設を利用されるようになったことに加え、新規入居者は全員が帰宅されないため、週末を含む全体の稼働率が大きく向上しました。

スタッフの環境整備：スタッフのスキルアップを目的とした研修を継続実施し、業務分担の見直しやメンタル面のケアにも取り組むことで、働きやすい環境の整備に努めました。

成果と反省点

成果

3 名の新規入居により年度末に満床を回復し、施設の安定運営が図られました。稼働率も前年と比較して向上しました。また、スタッフの離職もなく、職場の安定性が保たれました。

反省点

11 月に利用者の 1 名がうつ状態となり、その後は令和 6 年度いっぱい施設の利用が見られませんでした。これにより一時的に稼働率が下がる場面があり、今後はメンタルヘルス面での早期介入や外部支援との連携強化が課題となります。

退所状況

今年度中の退所者は前半の 2 名にとどまり、その後の退所はありませんでした。外部医療・福祉機関と連携を図り、継続的な生活支援と健康管理を実施しています。

今後の取り組み

空床が発生した際には迅速に対応できる体制を整え、入居希望者や関係機関との連携強化を図ってまいります。また、精神面での支援体制の充実を進め、個別性に応じたケアを提供することを目指します。

総括

令和 6 年度は、前半に退所者が続いたことで課題が浮かび上がる一方、満床の回復や稼働率の改善、スタッフの安定勤務といった成果も得られた 1 年でした。また、精神的ケアの必要性も再認識された年でもありました。これらの経験を糧に、今後も「ハーネ中御門」が地域に根ざした安心の場として信頼される施設であり続けるよう、引き続き努力を重ねてまいります。